



2017

オハラレポート

OHARA
株式会社 オハラ

編集方針

オハラレポートは、CSR活動に関する取り組みと事業活動を、よりステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的としています。

特集では、光事業とエレクトロニクス事業の製品を用途や担当者の声などを交えてご紹介します。また、オハラの事業活動や製品が社会の中でどのような役割を果たしているか、「ビジネスモデル」で表現するとともに、継続的な取り組みについても自己評価を交えてご報告します。2016年度の概況は「トップメッセージ」や「連結決算ハイライト」などにおいて解説しています。

本レポートを通じて、オハラをより身近に感じていただければ幸いです。

報告対象範囲

株式会社オハラ単体の活動を中心に掲載しています。

*ただし、決算数値(P3、21参照)につきましてはグループ会社を含みます。

報告対象期間

2016年度
(2015年11月1日～2016年10月31日)

*ただし、一部につきましては2017年度の内容を含みます。

発行時期

2017年1月
前回：2016年1月
次回：2018年1月予定

参照ガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版(G4)」
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

お問い合わせ先

株式会社オハラ 管理センター 総務部
TEL：042-772-2101
FAX：042-774-1071
E-mail：info@ohara-inc.co.jp

人と社会の未来創造のために

私たちは信頼を重視し

独自の技術力と最高品質の先進素材で

事業活動を通して

社会とともに持続可能な未来を築いていきます

CONTENTS	
オハラが考えるCSR・編集方針	1
イントロダクション	3
オハラグループについて	3
オハラスピリッツ	5
事業紹介(光事業)	7
特集1/非球面ガラスモールドレンズ開発ストーリー	8
事業紹介(エレクトロニクス事業)	9
特集2/耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)に迫る!	10
トップメッセージ	11
誠実な活動	13
社会との調和	15
情報の公開	16
環境の保全	17
社員の尊重	19
連結決算ハイライト	21
会社概要	22



経営理念

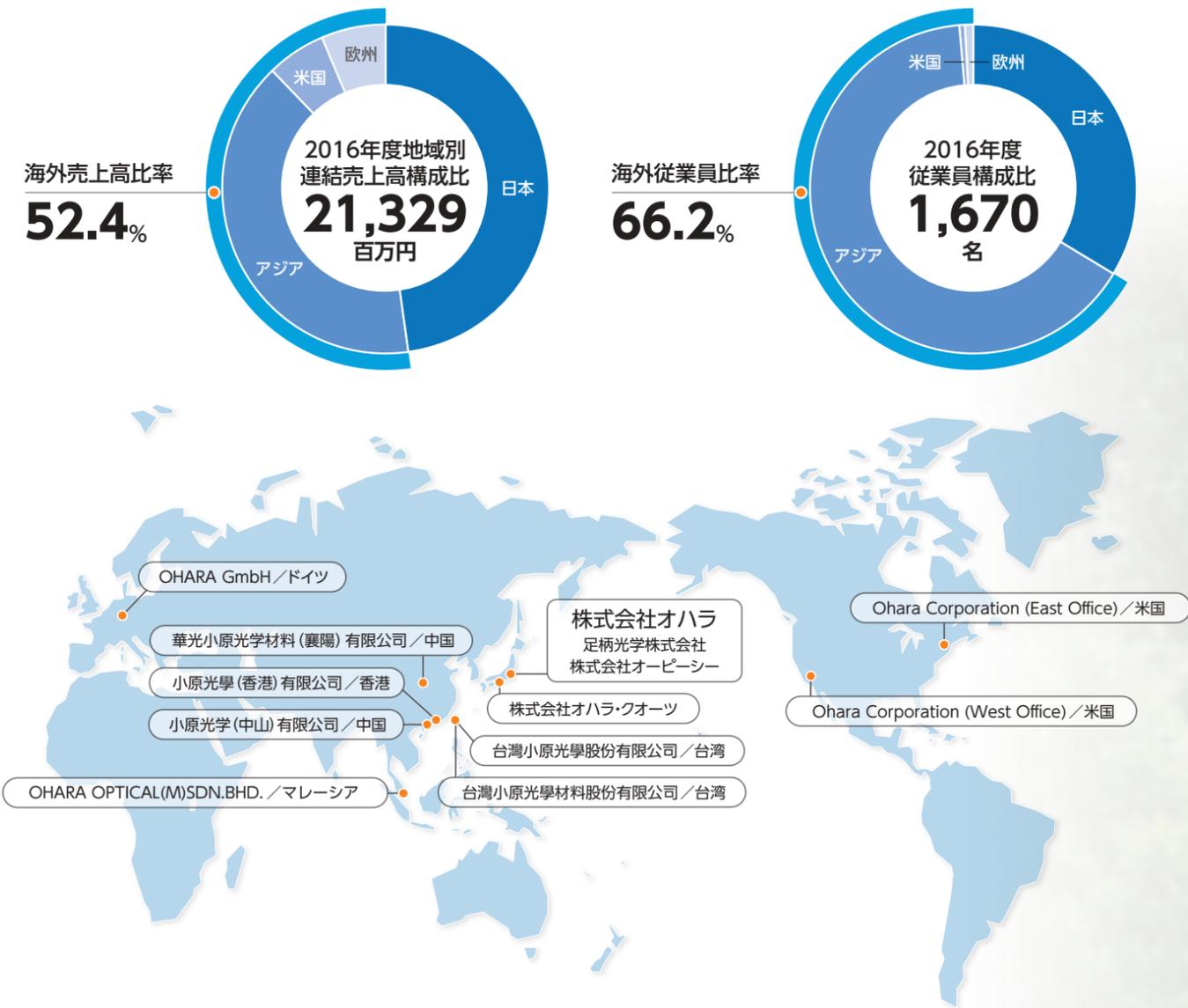
オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、最高品質の先進素材を世界中に提供することで、お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。

企業倫理の基本理念

オハラグループは、光製品やエレクトロニクス製品分野において、グローバルな事業展開をしています。



オハラグループのビジネスモデル

オハラグループはこれらの事業活動及び製品を通じて、あらゆるステークホルダーに対して企業価値の提供を行っています。また、新たな社会的課題の解決に向けて効率的に投資を行い、次なる価値の提供につなげていきます。



オハラグループの事業活動を支える「研究開発」「品質保証」「生産工程」についてご紹介します。

研究開発

オハラは光、電子(エレクトロニクス)などの物性を自由にコントロールできる先進素材の提供に向け、あらゆる可能性を追求しています。

オハラは1935年の創業以来、光学ガラス専門メーカーとして、日本の光学産業界の発展に寄与してきました。そして1985年、創立50周年を機に、高度情報化社会の多様化に対応した提案型素材メーカーへと脱皮してきました。

従来の光学ガラスをエコ化(環境対策)するとともに、極低膨張ガラスセラミックス、リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス、その他様々な機能を有する特殊ガラスの分野へとテクノロジーを支える企業を常に目指し、オハラの歴史に培われた技術を基に、次世代に向けガラスの未来にあらゆる可能性を追求しています。



原料調査



熱分析

Staff's voice

ガラスはアモルファス(結晶構造を持たない物質の状態)で、物性や特性を計算では予測できないため、試行錯誤を繰り返して材料となります。また、ほぼすべての元素を成分とすることができ、さらに結晶化技術により優位性を持つ新たな材料実現の可能性を有しています。今後も材料の特長を活かし、顧客満足の高い価値を提供していきます。



特殊品事業部
特殊品技術部
大原 和夫

品質保証

オハラは「最高品質へのこだわり」という遺伝子を持ち続け、お客様に満足いただける製品を提供し、エレクトロニクスの世界に誇る新たな材料を開発、製造する技術につなげています。

「お客様第一の考え」に基づいた品質方針には、「まず第一にお客様の要求を十分理解」とあり、品質を決めるのはお客様であるということを品質の基本にしています。そして長年にわたり品質マネジメントシステムを構築・運用し、同システムの有効性を継続的に改善することによって、製品及びサービスの品質向上に努めています。このようにして作り出された製品は、精度の高い測定技術によって、分析や評価を行うことで自信を持ってお客様へ提供しています。

また、2015年9月に改定されたISO9001規格への移行に向け、2016年11月からISO9001:2015年版の運用を開始し、2017年8月に認証取得を目指していきます。



基準プリズム



製品検査

Staff's voice

私も測定評価部門は「評価項目に対して迅速に精度の高い測定値を取得する」の考えに基づき、お客様の求める高品質の製品を安定して市場に提供するための一翼を担うことを至上任務としています。そのために蓄積した技術の継続・人材育成はもとより、市場の高度な技術変化に対応すべく、新たな項目及び手法の確立にも挑戦を続けています。



事業支援センター
品質保証部
新津 靖彦

生産工程

設計、生産から出荷まで、一貫した技術力と信頼のある製品を世界へ送り出しています。

オハラは80年にわたり、常に品質の安定した製品を作り出すために製造方法を開発しながら、改善改良を加えています。特に光学ガラスにおいては原料から2段階の熔解を行うことで、狙った性能に合致したばらつきの少ない材料を作っています。

この高品質ガラスの製造がお客様の満足度向上の源泉であり、オハラは超高精度温度制御技術による内部品質改良(屈折率調整、結晶析出調整など)により、さらにお客様の期待に応えた新たな物性の創造をしています。また、精密金型加工技術による高精度プレス、近年では非球面レンズの金型加工・プレス技術を確立し、総合的な技術革新に裏付けされた製品を世界に送り出しています。



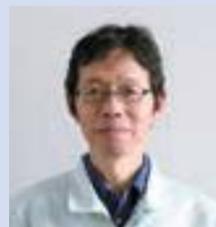
熔解徐冷(右図 ※1)



成形(右図 ※2)

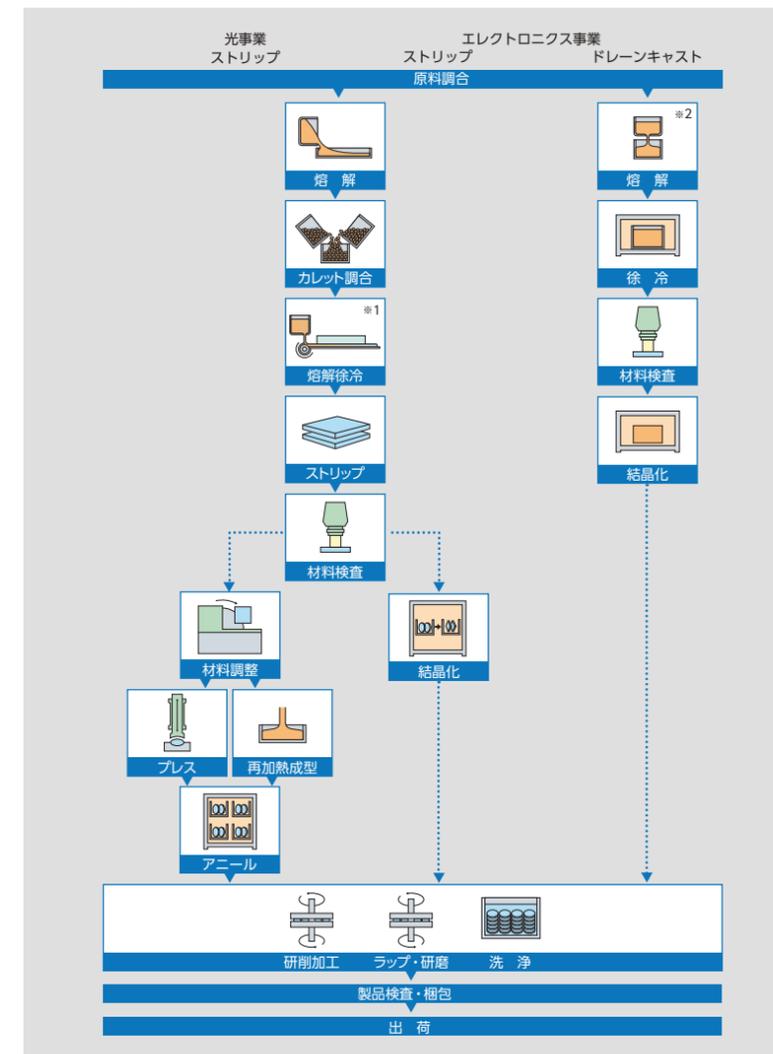
Staff's voice

私は、ガラス熔解炉や装置は設計することで終わりではなく、できるだけ自分たちで製作し、実際に生産まで入り込んで改善を行っていく必要があると考えています。そのため、製造担当部署とともに生産する中で、日々のガラスの品質や装置の変化の確認・操炉条件の微調整を指示しながら歩留まり向上に取り組んでいます。



光製品事業部
光材料BU
松本 寛

製造方式・工程



オハラグループの光事業をご紹介します。

光事業

光学ガラスは、デジタル一眼レフカメラ・プロジェクター・TVカメラ・車載カメラ・監視カメラ・医療機器など様々な光学機器に使用されています。オハラでは光学機器の高性能化、小型化、低コスト化を実現する特徴ある光学ガラスを150種類以上ラインナップし、あらゆる光学設計のニーズに対応しています。オハラが提供する最高品質の先進ガラス素材は、世界中の人々の笑顔や感動をサポートしています。



デジタル一眼レフカメラ (提供: キヤノン株式会社)



顕微鏡 (提供: オリンパス株式会社)

オハラ光学データアプリ

Android版 (Ver4.0~4.3)

[Google Play]にて「オハラ」で検索



iOS版 (iOS7以降)

[App Store]にて「オハラ」で検索



光学ガラス製品

光学機器の光学系は、光の屈折率や透過率に特徴を有した複数種類の光学ガラスを用いた、球面レンズ・非球面レンズ・プリズム・フィルターなどの光学部品を組み合わせで構成されています。

オハラは様々な光学機器の光学設計に対応するため、150種類以上の光学ガラスを取り揃えており、光学機器の高性能化、小型化、軽量化、低コスト化などの多種多様な光学設計のニーズにお応えしています。

また、お客様のご要望に沿って、レンズ加工に適した形状の光学ガラス、レンズ加工を施した製品など、ガラス素材から光学部品まで、様々な製品形態でお客様に光学ガラス製品を提供しています。



リヒートプレス品

球面研磨レンズやプリズム加工に適した形状に熱間プレス成形された製品

研磨プリフォーム

非球面ガラスモールドレンズ加工に適した形状に球面研磨された製品

球面レンズ

両面球面研磨加工・芯取加工・コート加工を施したレンズ

非球面ガラスモールドレンズ

研磨プリフォームを高温に加熱・軟化させ、超高精度非球面金型で形状を転写させ、芯取加工・コート加工を施したレンズ

Special feature

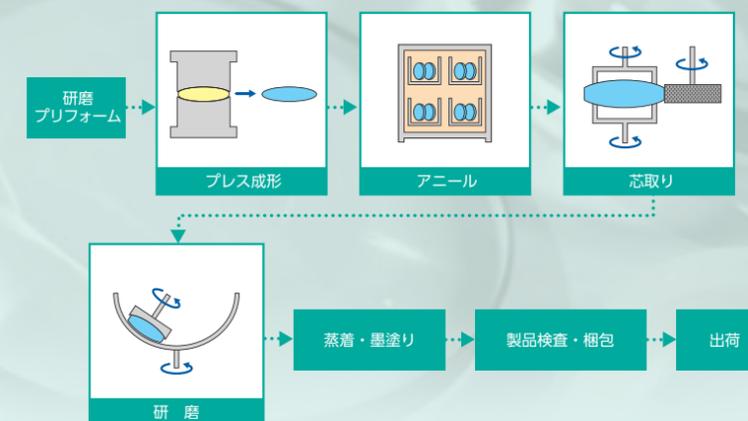


非球面ガラスモールドレンズ 開発ストーリー

デジタル一眼レフカメラ用交換レンズは高画質と小型化の両立が求められており、交換レンズに複数枚のガラス非球面レンズが搭載されています。

オハラではお客様からのご要望にお応えし、光学ガラス製造メーカーとしてのガラス組成開発・生産技術開発の強みを活かし、口径40mmを超える非球面ガラスモールドレンズ(GMO)の生産・販売を開始しました。オハラのGMOは交換レンズの性能向上に大きく貢献しています。

GMO製造工程



Staff's voice

非球面ガラスモールドレンズ(GMO)では業界後発となるオハラがどのような優位性を見出すか?今振り返るとここがポイントだったように思います。コンパクトデジタルカメラ市場の縮小が始まる中、難易度が高く各社が開発途上であった交換レンズ向け大口径非球面GMOをターゲットとして、市場参入しました。

その後、光学系のキーマテリアルと言われ、特に製造が難しい特殊低分散領域(蛍石領域)のS-FPL51硝材大口径GMOを業界に先駆けて製品化することに成功しました。

今では口径40mmを超える製品や、取り扱うガラスの種類も拡大を続けています。また、蛍石領域のレンズ特性をさらに向上させたS-FPL55硝材のGMOの製品化にも成功しました。

今後は、車載カメラ・監視カメラ・バーチャルリアリティ対応機器・4K高画質対応光学機器など、幅広い市場に製品を提供することを目指し、レンズ形状の自由度拡大を志向した技術開発に挑み続けていきます。



光製品事業部 光製品BU
光製品製造課
前川 公貴



非球面ガラスモールドレンズ用金型

ガラス研磨プリフォームを高温で軟化させた後、非球面形状に加工された超精密金型でガラスに圧力をかけることで金型の形状がガラスに転写します。金型もオハラで製作しています。

オハラグループのエレクトロニクス事業をご紹介します。

エレクトロニクス事業

光学ガラスで培った技術をもとに開発されたオハラの特殊ガラスは、半導体/FPD露光装置用部材、耐衝撃性が求められるカバーガラス、光通信フィルター用サブストレート、精密測定用基板、装飾用など幅広い分野で使用されています。また、石英ガラスではVAD製法による高品質な合成石英を提供しています。さらに様々な固体電解質としての応用が可能なリチウムイオン伝導性ガラスセラミックスの販売も行っています。今後も最先端分野へ採用されるべく、新たな製品の開発、品質向上を目指していきます。

耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)

ナノセラム™は、これまであらゆる分野で認められてきたオハラのナノ結晶化技術をさらに進化させ、優れた機械的特性、高透過率を実現したガラスセラミックスです。

耐衝撃性が求められる光学機器やモバイル機器などのカバーガラスなど、サファイアクリスタルガラスや化学強化ガラスでは実現できない新たなご提案が可能です。

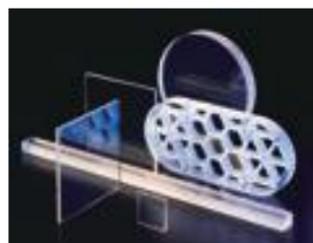


極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)

クリアセラム™-Zは、オハラが長年培った高均質熔解技術と結晶制御技術の応用により生み出された、極めてゼロに近い膨張特性を有するガラスセラミックスです。

ガラス組成、析出結晶の大きさ及び析出量を厳密に調整することで、ゼロ膨張特性と同時に高い加工性や高化学的耐久性も実現しています。

精密機器、半導体用部材や宇宙・天文用ミラー用途など最先端の分野で広く使用されています。



リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)

LICGC™はリチウムイオンだけを伝導し、水や酸素などの液体・気体は遮蔽します。また、他の多くの固体電解質と異なり、化学的に安定で、大気中でも取り扱い可能な優れた材料です。電解液を使用しない全固体電池などの次世代電池向けの固体電解質として、企業や研究機関を中心に使用が拡大しています。



i線用高均質性光学ガラス

半導体デバイスの製造装置や宇宙・天文用途など最先端技術を用いた光学系には、極めて高品質なガラスが必要です。i線用高均質性光学ガラスは内部透過率に優れ、ソーラリゼーション(紫外線による着色)を極力抑えた、光学的均質性の良い光学ガラスです。大口径レンズの取得も可能であり、大型化のニーズにもお応えします。



合成石英ガラス SK1300シリーズ

光ファイバーを製造するために開発されたVAD法を基に、独自の改良を積み重ね、高純度・高品質な大型合成石英素材の高効率製造を可能にしました。SK1300は耐熱性、機械的強度、耐薬品性などに加え、高い紫外線透過率、耐ソーラリゼーションなど、他に類を見ない優れた光学特性を持っています。

半導体、光通信をはじめ、あらゆる先端産業分野で幅広く利用されている合成石英ガラスは、株式会社オハラ・クォーツで展開しています。



Special feature

特集
2

耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス (ナノセラム™) に迫る!

耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)は、サファイアクリスタルガラスに代わる製品として開発されました。高強度品の化学強化ガラスに比較し、硬度20%向上、鋼球衝撃落下試験で3倍以上の耐衝撃特性を持ちます。また、サファイアクリスタルガラスより破壊靱性に優れ、キズがついても破壊の原因となるクラックが発生せず、粘り強く割れにくい特性を実現しました。

従来、ガラスセラミックスは結晶粒子が大きいと、光を通しにくく光学用途に使われることはありませんでしたが、オハラのナノ結晶化技術(粒子径約6nm)により高透過率を実現し、厳しい光学性能と品質精度が要求される国産一眼レフ交換レンズ用高級レンズプロテクターの新製品に搭載されご好評いただいています。今後、耐衝撃性が求められるスマートフォン(カバーガラス、カメラ、アクセサリなど)、スマートウォッチ、高級腕時計、その他スポーツや特殊用途でのタフモデル電子機器などの需要に対応していきます。



株式会社パワーサポート製スマートフォン用液晶保護ガラスフィルムに採用

Staff's voice



特殊品事業部
特殊品技術部
加工技術開発課
小島 玲香

ナノセラム™は、耐衝撃性・高硬度・加工性に優れ、化学強化、3D形状への変形対応も可能な夢の新素材です。私たちがよく目にするスマートフォンなどのモバイルやウェアラブル製品、また自動車関連などのお客様からもご興味をいただいています。今までにない製品を作りたいというお客様の熱意にいち早くお応えできるよう、私たちも今までにない加工技術などの開発に精力的に取り組んでいきます。



代表取締役 社長執行役員

齋藤 弘和

～未来を見据えて基本に立ち返る～

オハラでは創業間もない当時から、研究・技術開発へ積極的に経営資源を投下し、また自由な発想でガラス・セラミックスの可能性を追求する組織風土を培ってきました。

材料の研究・技術開発から事業化に至る過程は、相応の経営資源と時間を要する険しい道のりではありますが、創業以来、光学ガラスから特殊ガラス、ガラス・セラミックスの分野で様々なチャレンジを続けています。

それらの活動を継続していく上で、大きな「気づき」を与えて下さるのは、光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野で、技術革新による社会の変革に取り組むイノベーターたる技術者・設計者の方々でした。

夢の実現に向けて挑戦を続ける方々が描く「未来の設計図」に搭載されているのは、世の中になく新たな材料や、今までの限界を超えた機能を持つ材料。数々の試行錯誤を経て紡ぎだされる、材料に対する斬新なご要望が、私たちの活動する原動力となっています。

世界中でチャレンジを続けるイノベーターの方々の夢の実現に向けて、これからもお客様とともに「最高品質の先進材料」を創造していきます。

～最高品質を支えるのは人材のクオリティー～

「品質のオハラ」とお客様にご評価いただけることは最高の喜びであり、いつの頃からか、品質はオハラのプライドであるとの共通認識が育まれてきました。

品質とはすなわち人であり、最高品質を実現するには、人材のクオリティーを高めることが最も重要であると考えています。

「One OHARA」を合言葉に、オハラグループで働くすべての人が、オハラグループのミッション・ビジョンと各自の役割を重ね合わせて、心をひとつにして日々の仕事に全力を尽くすこと。

とても基本的なことではありますが、その取り組みの積み重ねが、人材クオリティーの向上に繋がります。今日のオハラの品質を支えています。

～2016年度の営業状況～

光事業では、デジタルカメラ市場の縮小が続く中、生産規模の適正化を進めてまいりましたが、想定以上に需要は鈍く、前年度比減収となりました。ただ、このような中、プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどについては、性能の向上に伴って品質の高い光学ガラスのニーズが高まっており、オハラの強みを発揮できています。

エレクトロニクス事業では、有機ELディスプレイに関する設備投資が活発に行われていることを背景に、極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)や石英ガラスの需要が増加し、前年度比増収となりました。また、新製品である耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)についても、スマートフォンのカバーガラス向けとしての顧客評価が進みました。

この結果、2016年度の連結業績は、売上高213億29百万円(前年度比6.5%減)、営業利益は1億43百万円(同73.3%減)となりました。また、経常損失は、営業外費用として為替差損や持分法による投資損失などを計上したため、84百万円(前年度は13億16百万円の経常利益)となり、親会社株主に帰属する当期純損失は、3億72百万円(前年度は5億45百万円の親会社株主に帰属する当期純利益)となりました。

～2017年度の取り組み～

光事業では、デジタルカメラ市場は、減少率こそ鈍化するものの、縮小が続くものと考えています。このため、まずは、生産設備をナノセラム™向けに転用することで、さらなる規模の適正化を図ります。その上で、プロジェクター、高精細デジタルカメラ、放送機器など、オハラの強みである製品の性能優位性を活かせる領域に注力します。また、車載カメラや監視カメラは、従来と異なる新たな顧客ニーズに応える必要があるため、新製品投入を含め、しっかりと取り組みます。

エレクトロニクス事業では、ナノセラム™の拡販が第一です。2017年度はスマートフォンのカバーガラス向けとしての採用を目指しており、順調にいけば2017年春頃には結果を出せる見込みです。また、これに先立ち2016年12月に

は、スマートフォンのオプション品となる液晶保護ガラスフィルムとして採用されました。一方、有機ELディスプレイに関する設備投資も引き続き活発であることから、クリアセラム™-Zや石英ガラスの需要も好調に推移する見込みです。

以上により、2017年度の連結業績予想は、売上高230億円(前年度比7.8%増)、営業利益9億円(同525.8%増)、経常利益は11億7千万円(前年度は84百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は8億8千万円(前年度は3億72百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)としています。

なお、以上を踏まえ、2017年度の配当予想は、5円増配の1株当たり15円を期末に行う予定としました。

～中期経営計画の実現に向けて～

オハラグループでは、2015年度からの3ヶ年を対象とした中期経営計画を策定しています。

数値目標については、2015年12月に見直しを行っており、売上高は240億円以上、営業利益は10億円以上です。先に掲げた2017年度の業績予想は、光事業の苦戦によりいずれもこの目標を下回りますが、エレクトロニクス事業の強化を進め、またさらなる業績向上に向けた施策に取り組み、その実現性を高めることでこの目標を達成できるよう、引き続き努力してまいります。一方、これ以外に掲げた総資産経常利益率2%以上、総資産有利子負債比率12%以下、エレクトロニクス事業売上高比率30%以上については、達成できる見込みです。

また、基本方針として掲げた「事業構造の転換」「新成長ドライバーの構築」の2点については、光事業依存から、エレクトロニクス事業を強化した、2本柱の事業体制確立を目指すという形で取り組んでいます。これに基づき、2017年度のエレクトロニクス事業売上高は、中計目標の80億円を上回る97億円に増額しており、引き続き戦略実現に向け邁進してまいります。

株主・投資家ならびにすべてのステークホルダーの皆さまには、さらなるご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

誠実な活動

私たちは、社会に役立つ製品・サービスを開発・提供し、お客様の満足と信頼を獲得できるよう努めます。このために、事業を行う国や地域の法律やルールを遵守するとともに、その国や地域の文化や慣習を尊重し、公正・透明・自由な競争および適正な取引を通じて、誠実な企業活動を行います。

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

オハラは、「常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。」を経営理念として定め、これに基づいて事業活動を行っています。

オハラは、この経営理念を実現するため、社内組織体制や経営管理上の仕組みを整備し、必要な施策を実施しています。また、株主、顧客、社員、地域社会などの様々なステークホルダーの皆様に対して、社会の公器としての責任を果たすことが、結果として、企業価値の最大化につながるということを強く認識し、企業倫理に即して透明性及び健全性が確保された経営を行うことが、オハラの考えるコーポレートガバナンスであります。

コーポレートガバナンスの充実に向けた取り組み

■ コーポレートガバナンスに関する基本方針

オハラは、2015年6月に適用開始となったコーポレートガバナンス・コードの趣旨・精神を踏まえ、オハラグループの持続的な成長及び企業価値の向上のために、最良のコーポレートガバナンスの追求及びその充実を図ることを目的として、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定しました。

※「コーポレートガバナンスに関する基本方針」の詳細についてはウェブサイトをご参照ください。

■ コーポレートガバナンス体制の強化

「コーポレートガバナンスに関する基本方針」に基づいて主に次のような取り組みを行いました。

1. 取締役会の実効性の強化

社内取締役を8名から4名に減員する一方、独立社外取締役2名を増員しました。これにより、取締役8名のうち4名が社外取締役となったことで、監視・監督機能が一層強化され、より実効性のあるコーポレートガバナンス体制の構築を図っています。

2. 取締役に対する業績連動報酬制度の導入

業績及び株式価値との連動性をより明確にし、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的に、短期の会社業績と個人の貢

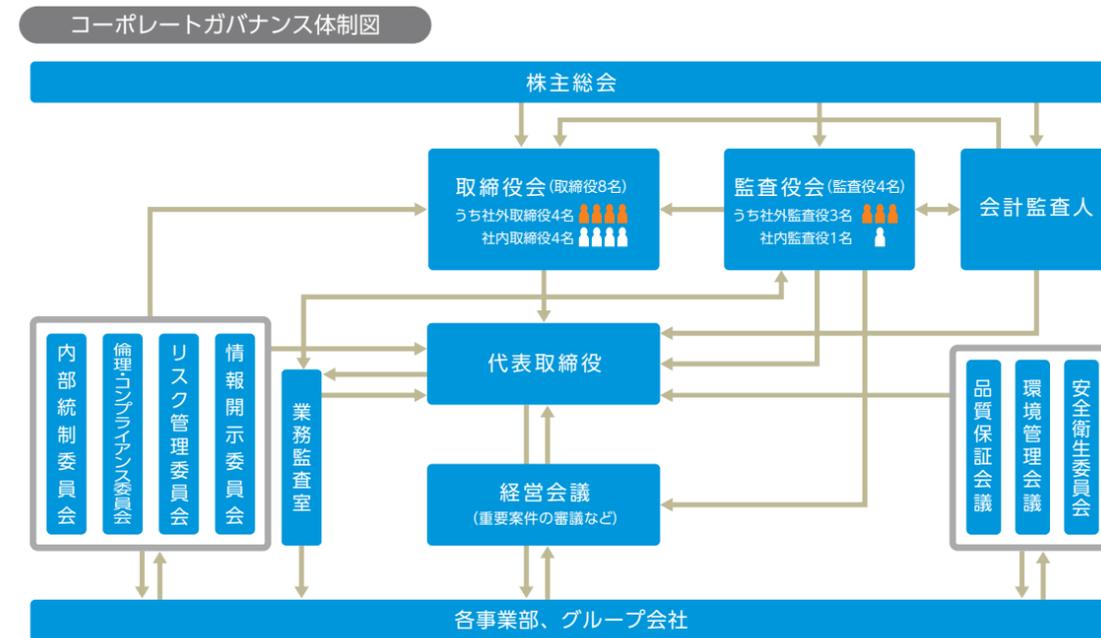
献度に連動した業績連動報酬制度及び中長期インセンティブ報酬としての株式報酬制度を導入しました。
(業務執行を行わない取締役は除く)

3. 執行役員制度の導入

新たに執行役員制度を導入し、経営の意思決定及び

監督機能と業務執行機能を分離することによって、執行責任をより明確化するとともに、業務執行の迅速化・効率化を図りました。

また、本制度を活用し、最高経営責任者などの後継者育成を行っています。



コンプライアンス強化に向けた取り組み

■ コンプライアンス推進体制

企業倫理の基本理念に則った「行動指針」を定めており、「倫理・コンプライアンス委員会」ではこの行動指針に従い、役員をはじめ社員全員が法令を遵守するだけでなく、高い倫理観を持って公正かつ適正な事業活動を遂行するよう、各種社内セミナーを継続的に実施しています。



役員向けコンプライアンスセミナー



全社員向けコンプライアンスセミナー

■ 行動規範「ガイドライン」

企業倫理の基本理念及び行動指針に基づき、事業活動において遵守すべき法令などの主要項目、対応方針及び注意事項などを具体的に明記したものを行動規範「ガイドライン」として定め、全社員に対して社内イントラネットなどを活用した啓発活動を行っています。



行動規範「ガイドライン」

■ 内部統制監査による財務報告の信頼性の確保

「内部統制委員会」を設置しており、当委員会では財務報告の信頼性を確保するための体制を整備、構築することを目的として、内部統制の計画及び活動実績や、内部統制評価結果が毎年報告される仕組みとなっています。

■ 内部監査による業務の適正性・効率性の確保

業務監査室による、各部門、子会社を対象とした監査計画に基づく定期的かつ継続的な監査を実施しており、それらの業務執行が社内規程などに則って適正に行われているかなど、業務の妥当性、適法性、合理性をチェックしています。



誠実な活動

2016年度活動レビュー

コーポレートガバナンス・コードの趣旨・精神を踏まえ、オハラの考えるコーポレートガバナンスを「コーポレートガバナンスに関する基本方針」としてまとめ、これに基づいて取締役会の改革、取締役に対する業績連動報酬制度の導入及び執行役員制度の導入などを行いました。これらによって経営の健全性や透明性を担保できる体制が整い、オハラグループの持続的な成長及び企業価値の向上に向けた取り組みが進みました。

自己評価 … ★★★★★

2017年度の課題

オハラグループの持続的な成長及びさらなる企業価値の向上に向け、より実効性のあるコーポレートガバナンス体制へと進化させていく必要があります。そのため、取締役会の評価・分析を行い、改善を進めていくことでより実効性のある取締役会としていくなど、これまでの取り組みをさらに充実、加速させていきたいと考えています。

目標達成度：★★★★=100% ★★=75~99% ★=74% 以下

私たちは、地域社会や国際社会との調和を忘れず、節度ある企業活動を心がけ、「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。

地域社会とのつながり

■ 安全運転管理者会の取り組み

相模原安全運転管理者会の会員として、オハラも会員各社とともに地域活動に参加し、児童の帰宅時間における交差点での見守りや相模原駅前などでの交通安全啓蒙活動に参加しています。



交差点での見守り

■ 交通安全講習

オハラでは、毎年12月に飲酒運転防止を重点に啓蒙活動を行っています。さらに、市内で自転車事故が多発していることから、2016年度は夏に相模原警察署から講師を招き、全社員向けに自転車事故防止の社内研修を行いました。



交通安全講習

社会貢献活動

■ 工場見学・職場体験の受け入れ

オハラは地域社会貢献活動の一環として、近隣の学校の工場見学などを受け入れています。

2016年度は小学3年生119名が工場見学に訪れ、普段見ることができない製造工程に目を輝かせ、ガラスについて興味を膨らませていました。

また、中学生も2年生6名が訪れ、製造業に対する理解を深めるとともに、働く人の姿に触れ、働くことの楽しさや責任をもって業務に就くことを学びました。



工場見学のお礼の手紙 (小学生)

職場体験 (中学生)

社会との調和

2016年度活動レビュー

社員に対する継続的な啓蒙活動の実施や地域主催の清掃活動などに、積極的に参加しました。しかし、社内美化(景観・美観)の維持・向上の推進については、工場周辺の清掃活動への参加率が目標値に届かず、未達成となりました。

自己評価 … ★★

2017年度の課題

地域社会とのつながりを大切に、今後も近隣の学校を中心に工場見学などの受け入れや、他社とともに交通安全啓蒙活動などに参加し、コミュニケーションを深めていきます。また、社内美化(景観・美観)の維持・向上についても活動を推進していきます。

目標達成度：★★★=100% ★★=75~99% ★=74%以下

私たちは、企業活動に対する社会からの正しい理解と支持を得るため、企業情報を適時・適切に開示し、誠実で、透明性の高いコミュニケーションに努めます。

ステークホルダーとのコミュニケーション

■ 株主・投資家とのコミュニケーション

毎年1月下旬に開催している定時株主総会では、株主の皆様におハラの戦略を分かりやすくお伝えするよう努めているほか、年1回統合報告書「オハラレポート」をお送りしています。

また、機関投資家、証券アナリストの皆様を対象に、決算説明会を年2回開催するとともに、IR担当部門にて随時個別取材に対応しています。



決算説明会

■ 個人投資家とのコミュニケーション

ウェブサイトにおいて、決算短信などの適時開示資料をはじめ、株主総会招集通知や決算説明会の資料といった各種資料を開示しています。また、2016年度は証券会社での個人投資家向け説明会も行いました。なお、これら説明会などでいただいたご意見は、速やかに経営陣と情報共有を行い、企業活動の参考としています。



個人投資家向け説明会

■ 年間IRカレンダー



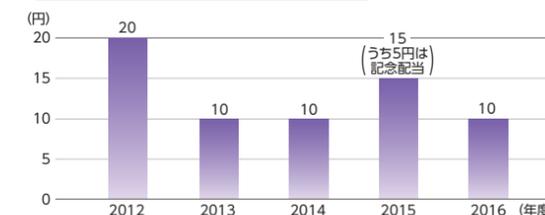
■ IR活動実績

12月15日	2016年10月期 決算発表・決算説明会
9月14日	2016年10月期 第3四半期決算発表
6月14日	2016年10月期 第2四半期決算発表・決算説明会
3月16日	2016年10月期 第1四半期決算発表
1月28日	第107期定時株主総会

■ 配当政策

オハラは、経営基盤の強化と今後の事業拡大のため、必要な内部留保を充実しつつ、株主各位に対する安定かつ継続的な利益還元を期末配当にて実施していくことを基本方針としています。

■ 配当金の推移



情報の公開

2016年度活動レビュー

全固体電池などのプレスリリースに対して多数のお問い合わせをいただくとともに、証券会社での個人投資家向け説明会も開催しました。前年度を大きく上回る、非常に多くの投資家とお話することができ、また多数の有益なご意見をいただくことができました。

自己評価 … ★★★

2017年度の課題

フェア・ディスクロージャー・ルール導入に向けた動きなどを背景に、公正・公平な開示について問い直される年になると考えています。オハラでは「企業情報開示規程」において定めた基本方針に則りIR活動を行っていますが、改めてその内容を周知徹底し、公正かつ適時・適切な情報発信に努めていきます。

目標達成度：★★★=100% ★★=75~99% ★=74%以下

環境の保全

私たちは、かけがえのない地球を大切に、企業活動の全ての局面で、環境保全活動に自主的・積極的に取り組みます。

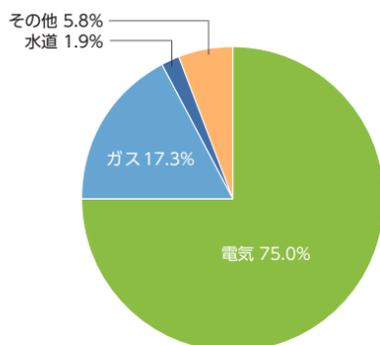
環境マネジメント

オハラは企業活動と地球環境との調和を目指し、環境理念と方針を掲げ、様々な取り組みを推進しています。

■ 省エネルギー・省資源への取り組み

ガラスの製造では多くのエネルギー（電気、都市ガス）を消費します。これまで様々な設備改善によるエネルギー使用量の抑制、生産効率アップを狙った改善活動などに努めてきました。今後も限りある資源を有効に活用するよう活動していきます。

エネルギー使用量内訳（金額ベース）



■ ISO14001自覚教育

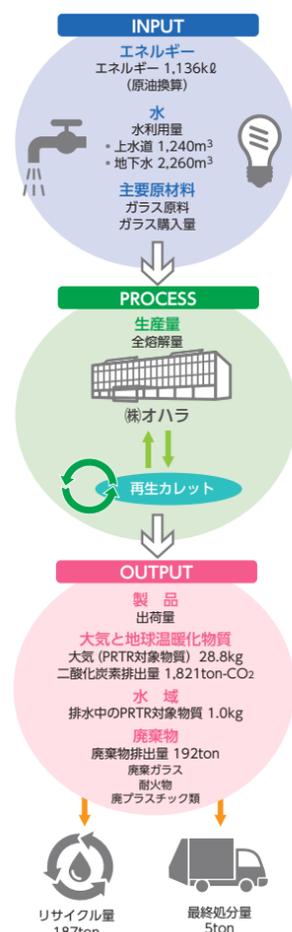
オハラは国際規格であるISO14001の2015年版取得に向け各種整備を実施しています。「内部及び外部の課題」や「ステークホルダーのニーズ及び期待」を考慮し、事業戦略に融合させたマネジメントシステムを確立し、「意図した成果」に結び付けられるよう現在システムの運用を開始しました。それに伴い、毎年実施している全社に向けた自覚教育では、これまでの取り組みに対する成果や製品含有化学物質の説明に加えて、ISO14001の2015年版についての変更点などを中心に教育しました。2017年4月に認証取得を目指していきます。



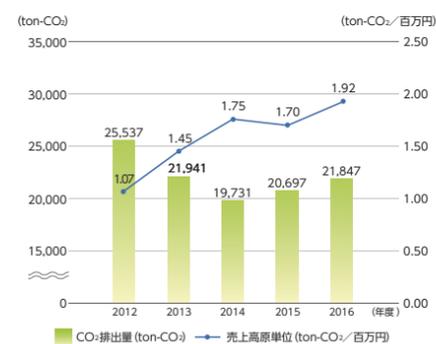
自覚教育

マテリアルバランス

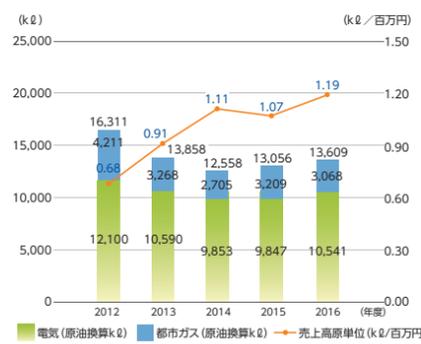
オハラは事業活動におけるエネルギーや資源の投入（INPUT）と、その活動に伴って発生した製品や環境負荷物質（OUTPUT）を定量的に把握し、環境保全活動に展開しています。数字は月平均値



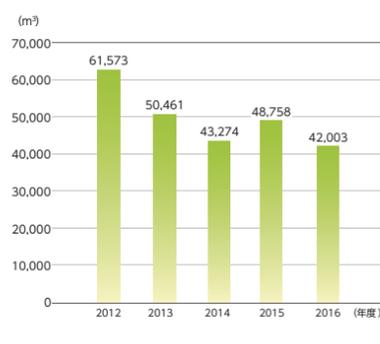
CO₂排出量



電気・ガス使用量（原油換算）



水資源の使用量



2016年度活動レビュー

■ 環境保全コスト

オハラの環境保全コストのうち、半分以上を廃棄物処理コストが占めていますが、敷地内の美化に関しても毎年一定のコストをかけて整備しています。お陰様で敷地内のパラ園も毎回すばらしい花を咲かせ、通行中の方も足を止めるほどになっています。また、定期的に草木の手入れを実施し、緑が溢れる構内でお客様をお迎えしています。



環境の保全

廃棄物の削減・再利用

目標達成度 … ★★

一時期の生産トラブルの発生で廃棄ガラスが増加し原単位が大幅に悪化してしまいましたが、それ以外の月では安定生産化と不良ガラスの再生利用化により改善されました。

省エネルギー

目標達成度 … ★

特殊ガラス用途の生産設備立ち上げや生産炉のトラブルなどもあり、生産に寄与できない期間が長かったため目標に達することができませんでした。

地域社会の環境調和

目標達成度 … ★★★

相模川クリーン作戦に参加し、参加者数は目標を達成しました。その他、他社主催の社会貢献活動、環境関連セミナーなどの活動に参加しました。

地球環境改善への貢献

目標達成度 … ★★★

環境負荷の少ない製品を促進するため、提案型営業を推進し顧客訪問展示会、技術交流会により得た情報を社内にフィードバックしました。

環境保全啓発

目標達成度 … ★★★

新製品・改良品の鉛・ヒ素フリー化は予定通りに進捗しました。

目標達成度: ★★★=100% ★★=75~99% ★=74%以下

2017年度の課題

● 廃棄ガラス原単位1%削減（2016年度下期比）とし、引き続き品種切替の効率化、製品歩留の向上などの取り組みを進め、廃棄ガラスの発生防止に努めます。

エネルギー原単位0.01k ϕ /ton以上削減（2016年度比）を目標に活動を進めます。

引き続き相模川クリーン作戦への参加を呼び掛け、多くの方に参加していただくよう働きかけます。

これまで大きな成果を出している顧客訪問展示会などを通じて、環境負荷低減の顧客ニーズを社内へフィードバックしていきます。

開発する新製品・改良品の鉛・ヒ素フリー化を継続していきます。

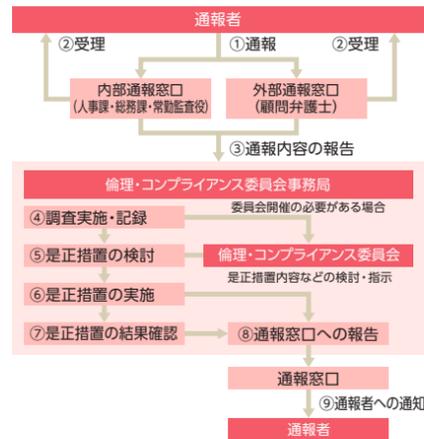
社員の尊重

私たちは、社員の人権・人格を尊重し、企業倫理の精神を育むとともに、安全で働きやすい労働環境を確保し、自由闊達な企業風土をつくります。

人権に対する取り組み

■ 内部通報(ヘルプライン)制度

相談者(通報者)が直接「倫理・コンプライアンス委員会」に相談(通報)するための内部通報(ヘルプライン)制度を設けています。2013年4月より内部通報窓口(常勤監査役)に加え、外部通報窓口(顧問弁護士(牧野友香子))が担当するなど、利用しやすい環境づくりに努めています。



VOICE ボイス

光製品事業部
光材料BU
光素材開発課

杉山 勲



再雇用制度を活用して

2015年3月に定年を迎え、その後再雇用制度を継続して活用しています。職場は在職中と同じであり、職場環境・人間関係にも大きな変化は無くこれまでの自分の経験・知識も活かせるため、仕事に張り合いを感じています。また、退職後の過ごし方も頭に描きながら健康に留意し、オハラに貢献できるよう努めていきたいと思っています。

オハラの人材育成

■ 人材育成に関する考え方

企業が持続的成長と発展をするためには、外部環境変化に即応・予応し事業や組織を変革し続けていくことが必要です。しかし、変革は事業や組織を変えただけでは達成できません。変革実現には個人個人が成長し変革の核となることが重要です。

オハラでは新入社員研修から始まる各年代の節目研修(若手研修・30歳・40歳・50歳)に加え、個々の社員に関連する専門教育(マネジメント研修)を組み入れた教育訓練体系により、自立した人材育成を目指しています。

働きやすい職場環境づくり

オハラは、ワークライフバランスの実現を目指し、2006年より働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。仕事は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすと同時に、家事、育児、介護、近隣との付き合いなど、仕事と家庭の両立を実現することで充実した人生になると考えています。このワークライフバランスを継続するためにも、女性の活躍を推進することも重要であると考え、計画を策定し実行していきます。

VOICE ボイス

株式会社オーピーシー 出向
総務サイト
総務G

力丸 有美子



勤続28年を迎えて

今振り返りますと育児制度がない時代、子育てしながら仕事をこなすことは周りの理解や協力がなければ到底成立しませんでした。とても理解のある職場にも恵まれたからこそ、ここまで継続できたと感謝しています。女性が子育てしながら活躍できる両立支援の環境整備や、役割・スキルに見合う活躍が公平に評価される職場作りなど、今後の課題は限りなく溢れています。それらの問題に対処しながら、次世代にどうバトンタッチするかが大きなテーマと考えます。

VOICE ボイス

特殊品事業部
特殊品材料BU
特殊品製造課

近藤 香代子



子育て支援制度を利用して

私は二度の育児休業を経て、現在は育児時短制度を利用しながら仕事を続けています。保育園に入園して間もない小さな子供はまだ体力が追いつかず、すぐに体調を崩してしまいましたが職場の皆様のご理解とあたたかいサポートのおかげで、仕事と育児を両立することができています。オハラの充実した子育て支援制度を利用できることに感謝しつつ、限られた勤務時間の中で、無駄なく効率よく業務を遂行できるよう日々努力を重ねていきたいと思っています。

社員の尊重

2016年度活動レビュー

会社運動として「時間外ゼロ」「定時退社率100%」を目指し2006年より働きやすい職場環境づくりに取り組み、また女性活躍推進法に基づく行動計画の策定と働きやすい環境整備に努めました。

自己評価 … ★★★★★

2017年度の課題

オハラはワークライフバランスのとれた「充実した人生」の実現に向けて課題に取り組んでいます。育児休業法、介護休業法の改訂も施行されますので、より働きやすい環境構築を目指します。

目標達成度：★★★★=100% ★★=75~99% ★=74%以下



みんなで1つに

オハラグループは、より良い企業づくりを目指しています。

自分の仕事に責任をもつことが最も大切だと考えています。

台湾小原光學股份有限公司/台湾

相手の立場を考えた業務を行います。

小原光學(香港)有限公司/香港

常に丁寧な対応を心掛け、お客様からの信頼を得られるよう努めています。

株式会社オーピーシー/日本

目標達成に向けて常に方法・改善案を考えていきます。

台湾小原光學材料股份有限公司/台湾

迅速かつ正確な対応を継続していきます。

OHARA GmbH/ドイツ

後工程のことを考え、1つ1つの仕事を大切に取組みます。

定柄光学株式会社/日本

挨拶はマナーの基本、仕事で大切な役割を果たすと考えています。

株式会社オハラ/日本

無駄を見つけ出し、正確に、適正な時間と方法で仕事をしていきます。

小原光学(中山)有限公司/中国

仕事には、必ず「改善」「改革」がありその先には「革新」があると考えています。

OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD./マレーシア

顧客の満足する製品を作り、信頼を得ることを第一に考えています。

株式会社オハラ・クオーツ/日本

異国文化の融合による経験を踏み、よい文化を醸成し成長していきます。

華光小原光学材料(襄陽)有限公司/中国

ビジネスチャンスのために、革新的で創造的であるように奨励しています。

Ohara Corporation/アメリカ

	2012	2013	2014	2015	2016 (年度)
主な経営成績 (単位：百万円)					
売上高	31,661	26,103	24,797	22,820	21,329
営業利益	1,072	△ 674	△ 110	538	143
経常利益	1,518	765	494	1,316	△ 84
親会社株主に帰属する当期純利益	475	△ 4,005	17	545	△ 372
純資産	39,877	38,971	40,672	41,522	37,040
総資産	57,015	54,582	54,823	55,130	50,161
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,744	5,007	3,969	1,573	1,447
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,217	△ 1,850	△ 576	△ 979	△ 850
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,022	△ 1,832	△ 1,510	△ 1,137	△ 354

1株当たりデータ (単位：円)					
純資産	1,625.18	1,582.67	1,650.60	1,706.97	1,522.70
当期純利益	19.55	△ 164.65	0.71	22.43	△ 15.31
配当金	20.00	10.00	10.00	15.00 [☆]	10.00

☆うち記念配当5円

主な指標 (単位：%)					
自己資本比率	69.3	70.5	73.2	75.3	73.8
ROA(総資産経常利益率)	2.6	1.4	0.9	2.4	△ 0.2
ROE(自己資本当期純利益率)	1.2	△ 10.3	0.0	1.3	△ 0.9
PER(株価収益率)	31.05	-	809.86	26.36	-
配当性向	102.3	-	1,402.7	66.9	-

セグメント情報 (単位：百万円)						
光事業	売上高	24,437	19,727	17,693	16,105	14,418
	営業利益	1,540	53	74	366	△ 107
エレクトロニクス事業	売上高	7,223	6,375	7,103	6,714	6,911
	営業利益	△ 468	△ 728	△ 184	171	251

※ 2014年度より、オハラグループの経営管理の効率化を図るため、連結子会社の各社決算日を連結決算日に変更しました。この変更により2014年度は、決算日が8月31日の連結子会社については2013年9月1日から2014年10月31日までの14ヶ月間、決算日が9月30日の連結子会社については2013年10月1日から2014年10月31日までの13ヶ月間を連結しています。

会社概要 (2016年10月31日現在)

商号 株式会社オハラ
 所在地 〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 TEL 042-772-2101 (代) FAX 042-774-1071
 創立 1935年10月1日
 資本金 58億5千5百万円
 事業内容 光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造・販売
 従業員数 408名(グループ全体1,670名)

株式情報 (2016年10月31日現在)

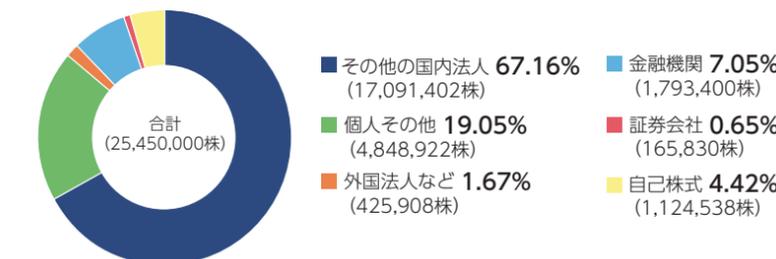
株式の状況
 発行可能株式総数 76,000,000株
 発行済株式の総数 25,450,000株
 株主数 4,652名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
セイコーホールディングス株式会社	4,702,722	19.33
キヤノン株式会社	4,694,380	19.30
京橋起業株式会社	4,688,400	19.27
三光起業株式会社	1,638,300	6.73
株式会社トプコン	673,600	2.77
セイコーインスツル株式会社	610,000	2.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	547,600	2.25
株式会社みずほ銀行	400,000	1.64
松田 健太郎	175,000	0.72
オハラ従業員持株会	146,700	0.60

(注) 出資比率は、自己株式(1,124,538株)を控除して計算しています。
 自己株式には、「株式給付信託(BBT)」制度の導入に伴い資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が保有する当社株式71,100株が含まれています。

所有者別株式数分布状況



役員一覧

代表取締役 社長執行役員	齋藤 弘和	社外取締役	小泉 達也*
取締役 専務執行役員	関戸 仁	社外取締役	内田 省寿*
取締役 常務執行役員	中島 隆	常勤監査役	久保田 桂詞
取締役 常務執行役員	青木 哲也	社外監査役	三上 誠一
社外取締役	大熊 右泰	社外監査役	脇屋 相武
社外取締役	戸倉 剛	社外監査役	杉田 光義*

(※) 社外取締役小泉達也、内田省寿及び社外監査役杉田光義の3名は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

株主メモ

事業年度 毎年11月1日～翌年10月31日
 剰余金の配当基準日 10月31日(中間配当を行う場合は4月30日)
 定時株主総会 毎年1月下旬
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1-2-1
 事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 公告方法 電子公告
 (http://www.ohara-inc.co.jp/)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社などに口座をお持ちの場合	証券会社などに口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部	
電話 お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)	
お取扱店	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
未払配当金の お支払い	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社などに口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

-  **1935** 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
-  **1936** 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944** 2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954** 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958** 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961** 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
-  **1969** 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
-  **1975** 8月：低屈折低分散ガラス (S-FPL51) 生産開始
- 1982** 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
-  **1983** 3月：ステッパー用ハイホモガラス ($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$) 量産開始
-  **1984** 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985** 5月：株式会社オハラに社名変更
- 1987** 3月：紫外線 (365nm) 高透過ガラス生産開始
6月：装飾ガラス販売開始
-  **1988** 8月：結晶化ガラス生産開始
-  **1991** 9月：環境対策光学ガラス生産開始
- 1992** 3月：計測サービス開始
-  **1993** 3月：極低膨張ガラスセラミックス生産開始
- 1994** 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997** 3月：光学ガラス推奨112種類 (当時) のすべてをエコ化
6月：磁気ヘッド浮上高測定用ガラスディスク生産開始
10月：光学ガラス部門及び特殊ガラス部門ISO9002の認証取得
- 1998** 4月：全部門ISO9001の認証取得
10月：高屈折低比重メガネ用ガラス生産開始
-  **1999** 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000** 1月：低光弾性ガラス生産開始
4月：ISO14001認証取得
10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
-  **2002** 6月：大規模連続熔解開始
- 2005** 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006** 11月：ファイバー用エコガラス (内視鏡用など) 生産開始
-  **2007** 1月：本社棟竣工
2月：低蛍光ガラス (顕微鏡用など) 生産開始
9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2012** 8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
-  **2013** 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICG™) 発売開始
- 2014** 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月：極低膨張ガラスセラミックス (クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015** 3月：非球面レンズ量産供給開始
10月：創立80周年
-  **2015** 12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス (ナノセラム™) 発売開始
耐放射線光学ガラス発売開始

OHARA
株式会社 オハラ

〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
TEL: 042-772-2101(代) FAX: 042-774-1071
ウェブサイト: <http://www.ohara-inc.co.jp/>

